

# データと政策立案

## 科学的な政策立案の実現に向けて

「これまで」と「これから」

政策立案の  
これまで

- ・政策は政府が独占するものという誤解
- ・政策立案技術は On-the-Job Training
- ・そのために新しい政策課題への対応が困難

政策立案の  
これから

- ・客観的データに基づいた科学的な政策立案
- ・政策立案のフレームワークを見える化

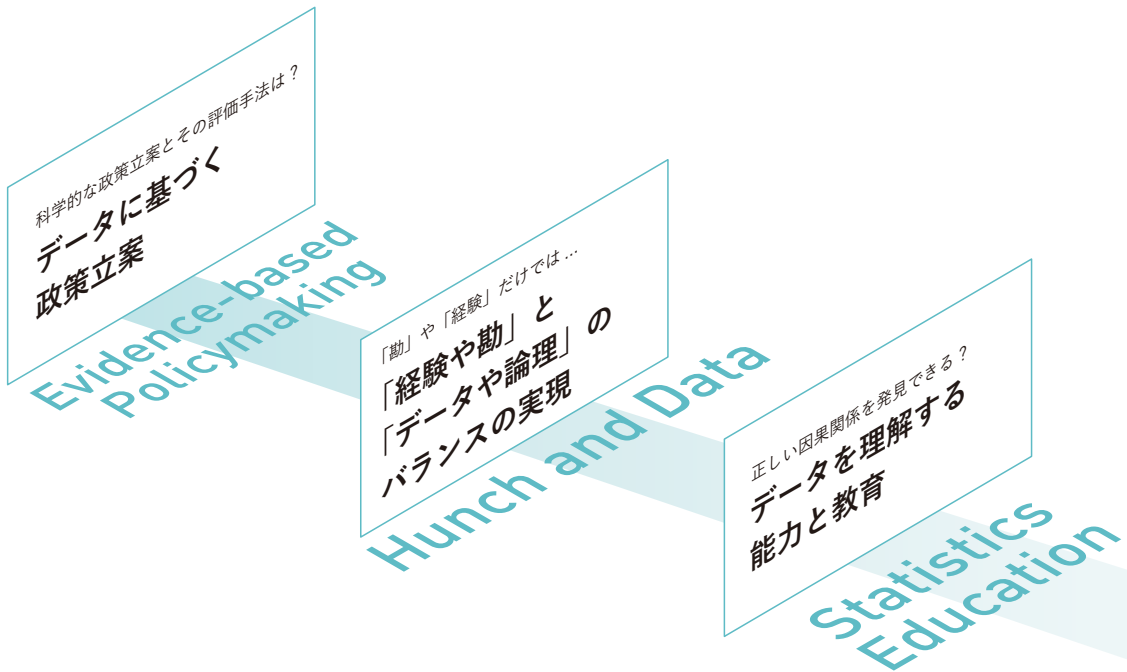
しかし!

データ万能主義は、  
行き過ぎた考え方

より良い結論を導くには、「勘」や「経験」といった要素も大事。「経験や勘」と「データや論理」のバランスが大切。

データに還元できない住民の価値判断を入れるのが民主主義。データを示した上で、最後は討議によって決めることが大事。

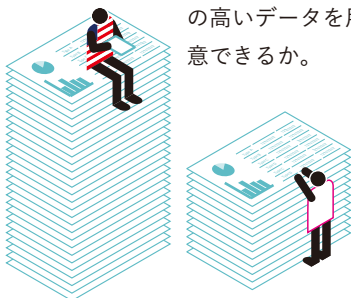
データを活用した  
政策立案を実現するためには



行政に残された課題とは?

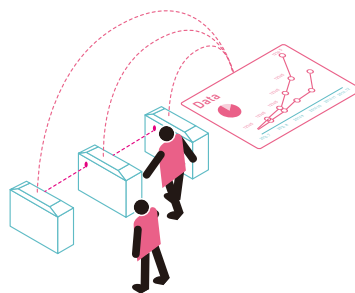
客観的定量的なデータの不足に  
どう対処すべきか。

アメリカでは有識者や関係者の意見を聴き、データ収集・利用を行っている。日本でもこうした取組を通して、十分な量の質の高いデータを用意できるか。



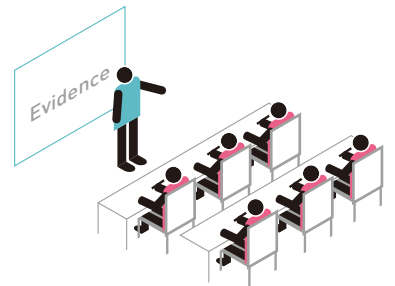
恣意的なデータを排除し、  
定量化を進められるか。

恣意や操作の入り込む余地のない科学的な定量化が大切。無理やり定量化することは好ましくない。



データ活用の理解、  
政策立案の手法をどう学ぶか

政策の作り手である政治家・官僚と受け手の国民・マスコミ双方ともが、科学的政策立案への理解を深めないといけな。



# 政府と国民との関係

日本の行政は他国に学び、どこまで改善できるか



Diversity  
Flexibility  
Trial and Error  
Comply or Explain  
Value for Money

## イギリスにおける行政運営の特徴

様々な国の人が働き、多様性を受け入れる

仕事の役割分担が明確であり柔軟な勤務形態

新しいことを試してみる、柔軟な行政運営

原則は示すが細かな問題は当事者間で議論し解決する

行政の費用対効果に対する意識が高い

## 日本における行政運営の特徴

人種の多様性や男女共同参画度は低い  
(但し、職能的な多様性においては世界で2位)

仕事の役割分担が曖昧で業務の幅が広い

正確でミスのない行政運営が求められる

様々なケースを想定しルールを決めておく

コストを度外視して結果を求められることも

イギリスの行政運営の全てを日本の行政が目指すべき？

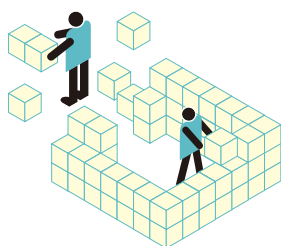
**行政のあり方は、  
国民と行政の責任分担に関する  
社会の合意の在り方に基**づいている



行政に残された課題とは？

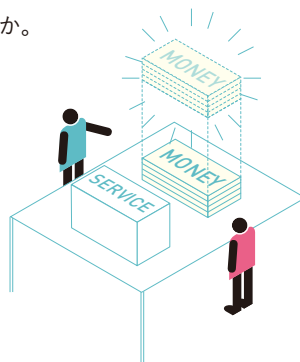
対処ではなく予防に全力を尽くす  
管理型の文化・社会

正確性を重要視する日本の行政。寛容さを選択し、完璧から逸脱するチャレンジを評価できるか。



Value for Money  
費用対効果は適切？

日本では、投入するコストを度外視して結果が求められているのではないか。



外国の制度を取り込みつつ  
日本が求めるモデルとは？

外国の制度のいいところ取りはできない。では、日本が求めるべきモデルとは何か。

